

執筆細則は、投稿論文（査読を必要とする原稿）に対するものです。
（依頼論文については編集委員会からの執筆依頼に伏した要項に準じてください）

低廉安価な学会誌の刊行を実施するため、本会では提出された原稿をそのまま掲載する形態を採用しています。そのため、提出原稿の体裁を学会誌の体裁と全く同じものとするに協力してください。

- 必ず、規定の投稿表に必要事項を記入し、原稿を添付してください。
- 原稿は、A4版の用紙を用い、
左マージン 20mm, 右マージン 20mm
上マージン 30mm, 下マージン 30mm
の中で、ワープロ等で印刷してください。手書きは認めません。提出原稿がそのまま掲載されますので、できる限りきれいな出力をお願いします。
- 第1ページはじめに、表題、著者名、所属機関名を日本語、および英語で表記します。日本語表題は15ポイント、英文表題、および著者名は12ポイント、所属機関は10ポイントとし、日本語はゴシック体フォント、英文は太字(Boldタイプ)の欧文フォントを用います。また、それぞれ中央にそろえてください。
- 次に、要旨を和文(400字程度)あるいは英文(200語程度)に簡潔にまとめて書きます。和文要旨、英文要旨のいずれかがあれば十分ですが、和文、英文ともに掲載することも可能です。
字間は約1.6mmとし、10ポイント、通常の欧文フォントの文字を用いてください。
- 英文要旨の下に5つ以内のキーワードを付けます。
文字は、10ポイント、ゴシック体フォントとします。
英数文字、コンマ、ピリオド、ハイフン、小数点は半角文字とし、欧文フォントとします。
例:(キーワード: 人的過誤, 操作性, 意思決定モデル)
- 英文要旨、キーワードに続き、本文を書きます。本文は、2段組とし、一段当たりの字数は全角25文字(字間1.6mm)、行間5.9mm、段間は10mmを基本とします。通常は、10ポイント、明朝体フォントの文字とします。英数文字、コンマ、ピリオド、ハイフン、小数点は半角文字としてください。
- 第2ページ以降の書き方も同じですが、行数は40(行間5.9mm)にしてください。
- 見出しは、章では1.○○、2.△△、節では1-1.□□、2-3.xxとします。章題の文字は12ポイント、ゴシック体フォント、節題は10ポイント、ゴシック体フォントにしてください。
- 図表は、本文中に適切な位置に、適切な大きさで組み込んでください。図表は、段をまたがって描かれてもよいですが、左右上下の各マージンよりはみ出ないように注意してください。また、図題は図の下に、表題は表の上に、それぞれ図番号、表番号を添えて日本語、及び英語で記します。
表題、図題とも10ポイントとし、日本語はゴシック体フォント、英文は太字(Boldタイプ)の欧文フォントを用いてください。
- グラフは右上図を参照し、縦軸、横軸に目盛りを入れ、縦軸、横軸の説明に用いる文字の向きに注意してください。
また、グラフに用いる文字の大きさ、フォントは執筆者の裁量にまかせますが、日本語はゴシック体フォント、英数文字は太字(Boldタイプ)の欧文フォント、文字の

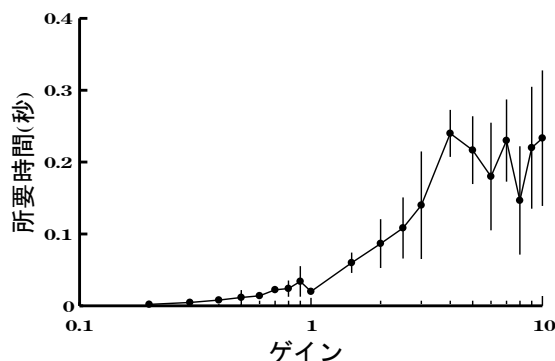


図1 ゲインの増加に伴う所要時間の変化

Fig.1 Change in the necessary time with progress in gain of control input

大きさは10ポイントを基本とします。

- 表に用いる文字は、10ポイント、日本語はゴシック体フォント、英数文字は太字(Boldタイプ)の欧文フォントとします。
- 文献引用にあたっては、右肩に⁽¹⁾をつけ、参考文献は本文の末尾にまとめて記載します。文献番号は文中の参照順とします。文字は、10ポイント、日本語文献は明朝体フォント、海外文献は通常の欧文フォントとしてください。
例:
(1) 金銀花、黒岡武俊、山下裕、西谷紘一; プラントオペレータの異常診断過程のシミュレーションとエラー分析、日本プラント・ヒューマンファクター学会誌, Vo 1.8, No.1, 44-52, 2003
(2) 林喜男ほか:「人間工学」、日本規格協会、115-116、1981
(3) Arnaut,L.Y., and Greenstein,J.S: Is Display/Control Gain a Useful Metric for Optimizing an interface?, Human Factors, 32, 651-663, 1990
- 脚注は、表題、所属機関についての補足説明、内容等の補足説明に限り用いることとします。本文の右段下に境界を表す横線を引き、その下に記入します。はじめに示したマージンからはみ出ないように、印字位置に注意してください。使用する文字は本文に準じてください。
- 単位はSI単位を使用します。慣用の略語や化学記号は、そのまま使用することができますが、一般的でないと思われる場合は最初に説明を付加してください。
- 最近号の本学会誌に掲載された投稿原稿の体裁に習って、同類論文を参照してください。

なお、上記に即したフォーマットファイルは、本学会のウェブページからダウンロード可能ですので、ご利用下さい。

<http://j-phf.com/submission/index.html>